諮問番号：2025年度諮問第1号

答申番号：2025年度答申第1号

答申書

第1 審査会の結論

審査請求人〇〇〇〇及び〇〇〇〇（以下「審査請求人ら」という。）が2025年1月19日付けで提起した、処分庁町田市福祉事務所長による審査請求人〇〇〇〇に対する保育の利用保留処分（以下「本件処分」という。）についての審査請求は、棄却すべきである。

第2 審査会の調査審議をめぐる経過

- 1 2025年 1月 9日 処分庁が審査請求人〇〇〇〇に対し、本件処分の通知書を発送
- 2 2025年 1月19日 審査請求人らが本件処分の取消しを求める審査請求を提起
- 3 2025年 2月28日 処分庁が弁明書を提出
- 4 2025年 3月19日 審査請求人らが反論書を提出
- 5 2025年 6月10日 審理員による審理員意見書の提出
- 6 2025年 6月17日 審査庁から審査会に対する諮問
- 7 2025年 6月27日 審査請求人らが意見書を提出
- 8 2025年 7月11日 審査会の調査審議
- 9 2025年 8月25日 同上

第3 審査関係人の主張の要旨

1 審査請求人らの主張

- (1) 処分庁は、審査請求人〇〇〇〇が入力した、審査請求人らの子である〇〇〇〇さん（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生まれ。2025年4月1日時点で〇〇歳。以下「〇〇〇〇さん」という。）の「〇〇〇〇〇保育園」への入所希望を、〇〇〇〇〇本園への入所を希望しているものとして取り扱った。しかし、「〇〇〇〇〇保育園」への入所を希望した場合に〇〇〇〇〇本園への入所を希望しているものとして取り扱う旨はどこにも記載されていない。それにもかかわらず、「〇〇〇〇〇保育園」への入所希望を〇〇〇〇〇本園への入所を希望しているものとして取り扱うことは、町田市行政手続条例（以下「条例」という。）第5条第2項の規定に反し、違法である。
- (2) 審査請求人らは〇〇〇〇〇本園及び〇〇〇〇〇分園双方の入所選考を行ってもらいたいと考えていた。この場合、利用申込の際に本園分園双方の園名を入力しなければならないとのことだが、その旨は明記されていない。それにもかかわらず、「〇〇〇〇〇保育園」への入所希望を〇〇〇〇〇本園のみの入所を希望しているものとして取り扱い、双方の入所選考を行わなかったことは、条例第5条第2項の規定に反し、違法である。
- (3) 〇〇〇〇〇本園と〇〇〇〇〇分園は、一体的に運用されている場面が多々ある。また、園の公式サイト、まちだ子育てサイト、処分庁が公表している「2025年4月1日入園 公立・私立認可保育所募集人数（一次）v o l . 3」、町田市保育コンシェルジュブック、町田市2025年度入園のしおり（以下「入園のしおり」という。）などの記載を踏まえると、「〇〇〇〇〇保育園」は、〇〇〇〇〇本園のことを指すことも、〇〇〇〇〇分園のことを指すこともあるというべきである。条例第7条の規定を踏まえると、本件のような場合、処分庁は、審査請求人らが〇〇〇〇〇本園、〇〇〇〇〇分園のいずれの園への入所を希望しているのか確認するべきであった。しかし、処分庁は、いずれの園への

入所を希望しているのか確認することなく、〇〇〇〇〇本園及び〇〇〇〇〇のみの入所選考をして、本件処分を行った。本件処分は取り消されるべきである。

- (4) 処分庁は、本件審査請求後にオンライン申請画面の「入所を希望する保育所等の名称」記入欄をプルダウン化し、短期間でシステム改修を行っている。審理員意見書では、入園のしおりのみを正として「審査基準は具体的で問題がない」としているが、処分庁の行動は矛盾している。審理員意見書は、処分庁の主張を追認した内容で第三者として独立した検討がなされていない。

2 処分庁の主張

- (1) 町田市では、認可保育所等の入所申請における審査基準として、入園のしおりを公表している。

入園のしおりにおいては、本園と分園は別の運営施設とみなす旨を記載している。また、入園のしおりの認可保育施設一覧表においては、〇〇〇〇〇本園と〇〇〇〇〇分園を別の園として記載している。

- (2) 〇〇〇〇〇本園及び〇〇〇〇〇分園の運営法人が配布する入園案内、園のホームページ及び園の周辺に設置されている掲示板において、〇〇〇〇〇本園は「〇〇〇〇〇保育園」と、〇〇〇〇〇分園は「〇〇〇〇〇」とそれぞれ記載されている。

このことからすると、「〇〇〇〇〇保育園」への入所を希望する旨の申請があった場合には、〇〇〇〇〇本園への入所を希望しているものと解するべきである。

- (3) 以上を踏まえて処分庁は、〇〇〇〇〇本園への入所の可否について選考をして、本件処分を行った。

本件処分は適法かつ相当なものであるというべきである。

第4 審理員意見書の要旨

1 結論

本件審査請求において審査請求人が主張する理由はいずれも認められないことから、本件審査請求は、行政不服審査法第45条第2項の規定により、棄却されるべきである。

2 判断の理由

(1) 審査請求人らの主張(1)について

条例第5条第2項は、行政庁に対し、審査基準をできるだけ具体的なものにすることを求める規定であるところ、処分庁が審査基準として公開している入園のしおりには、保育所等の申込手続のほか、各認可保育施設の園名、所在地、定員が園ごとに分けられた一覧表の形で記載されている。また、希望する保育所等について定員を上回る申込みがあった場合の選考方法及び選考基準(調整指数)が、保護者及び世帯の状況ごとに項目化して一覧表の形で記載されている。このように、入園のしおりには処分庁が保育所等の利用申込に対してその可否を決定するために必要な基準が記載されており、その内容も、利用申込をした者が自らどのように審査が行われるのかを判断することが可能な程度に具体的である。「〇〇〇〇〇保育園」への入所希望があった場合に〇〇〇〇〇本園への入所を希望しているものとして取り扱う旨が記載されていないことをもって、審査基準が具体的でないということとはできない。

以上のとおり、本件における審査基準は具体的であったといえる。「〇〇〇〇〇保育園」への入所希望を〇〇〇〇〇本園への入所を希望しているものとして取り扱ったことが条例第5条第2項の規定に反し違法であるとはいえない。

(2) 審査請求人らの主張(2)について

処分庁が作成・公開している入園のしおりは、処分庁が保育所等の利用申込に対してその可否を決定するために必要な基準が記載されており、その内容も具体的であるといえる。

また、本園と分園は所在地、電話番号、定員、募集人数などが異なり、別の園としてそれぞれ募集が行われている。そして、そのことは入園のしおりや募集人数一覧に明確に記載されている。さらに、1つの欄の記入に対して2つの園の入所選考を行うことは公平性に反することも踏まえると、本園と分園がある園について双方の入所選考を希望する場合には、双方の園名を入力して利用申込をしなければならないことは明らかである。したがって、本園と分園がある園について双方の園の入所選考を希望する場合には双方の園名を入力しなければならない旨が明記されていないことをもって、審査基準が具体的でないといふことはできない。

以上のとおり、本件における審査基準は具体的であり、双方の入所選考を行わなかったことが条例第5条第2項の規定に反し違法であるとはいえない。

(3) 審査請求人らの主張(3)について

〇〇〇〇〇本園及び〇〇〇〇〇分園の運営法人が配布する入園案内、園のホームページ、園の周辺に設置されている掲示板などにおいては、〇〇〇〇〇本園のことを指して「〇〇〇〇〇保育園」という名称が用いられている。一方、〇〇〇〇〇分園のみのことを指して「〇〇〇〇〇保育園」という名称を単独で用いるケースは存在しない。

また、処分庁はこれまで、本園と分園があるにもかかわらずいずれの園への入所を希望しているのか明記されずに行われた入所申込について、一律に本園への入所を希望しているものとして取り扱い、本園についてのみ入所選考を行ってきた。

これらのことからすると、本件において審査請求人〇〇〇〇〇が入力した「〇〇〇〇〇保育園」について、処分庁が〇〇〇〇〇本園のことを指していると判断することは合理的であり、本件の利用申込が申請の形式上の要件に適合しない申請であったとはいえない。

さらに、本件において審査請求人らは、〇〇〇〇〇本園と〇〇〇〇〇分園の定員や募集人数がそれぞれ個別に設定されていることを認識していた。また、〇〇〇〇さんの兄は〇〇〇〇〇本園に在所しているため、〇〇〇〇さんについて〇〇〇〇〇本園への入所を希望した場合、きょうだい優先の適用がある。

このことを踏まえると、審査請求人らは〇〇〇〇〇本園への入所を希望しているものと処分庁が取り扱うことはなおさら合理的であり、処分庁に〇〇〇〇〇本園と〇〇〇〇〇分園のいずれの園への入所を希望しているのか審査請求人らに確認をするべき義務があったともいえない。

したがって、本件において処分庁に補正又は許認可等の拒否を行う義務は認められず、審査請求人らが〇〇〇〇〇本園、〇〇〇〇〇分園のいずれの園への入所を希望しているのか処分庁が確認することなく〇〇〇〇〇本園についてのみ入所選考を行ったことが条例第7条の規定に反し違法であるとはいえない。

第5 審査会の判断の理由

- 1 審査請求人らは、審査請求人〇〇〇〇〇は、〇〇〇〇〇本園及び〇〇〇〇〇分園双方への入所申請を行ったのであるから、「〇〇〇〇〇保育園」への入所希望を〇〇〇〇〇本園のみの入所を希望しているものとして取り扱い、双方の入所選考を行わなかったことは違法である、当該申請について処分庁がいずれか一方の園の選考しか行わないのであれば、審査請求人〇〇〇〇〇が本園と分園のいずれの園への入所を希望しているのかを選考前に確認するべきであったと主張する。
- 2 町田市においては、保育所への入所の申請方法、必要書類、施設一覧、保育料などを記載した入園のしおりや各園の募集人数一覧表を作成し、申請をする者に対して入園のしおりを読むとともに募集人数を確認することを求めている（審査請求人3月19日提出資料1）。

本園と分園が設置されている園は、入園のしおりにおいてそれぞれ個別に定員

が記載されており（処分庁提出資料5・53頁から56頁）、募集人数一覧表においてもそれぞれ個別に募集人数が記載されている（審査請求人1月19日提出資料1）。また、入園のしおりには、「選考上は、上の子が本園に在籍しており、下の子が分園を申請する場合、本園と分園は別の運営施設とみなすので、きょうだい優先の適用はありません」という記載もある（処分庁提出資料5・60頁）。これらの事実からすると、本園と分園がある園において本園と分園の選考がそれぞれ個別に行われることは、明らかであるというべきである。

また、入所申請において入所を希望する保育所等の名称は第5希望までしか記入することができない（処分庁提出資料1）。このような中で審査請求人らが主張するような取扱いを行うと、最大10園の申請を行ってしまう。

以上を踏まえると、審査請求人〇〇〇〇が行った「〇〇〇〇〇〇保育園」という記載に対して処分庁が〇〇〇〇〇〇本園及び〇〇〇〇〇〇分園双方の入所選考を行うことはできないと解するべきである。この結論は、審査請求人らが主観的に〇〇〇〇〇〇本園及び〇〇〇〇〇〇分園双方の園への入所選考を希望していたとしても変わらない。

- 3 次に、審査請求人らに確認することなく「〇〇〇〇〇〇保育園」という記載を〇〇〇〇〇〇本園への入所希望であると取り扱うことはできるか否かを検討する。

「〇〇〇〇〇〇保育園」という記載が〇〇〇〇〇〇本園のことを指しているとその記載自体から直ちに読み取ることはできない。しかし、分園への入所を希望する場合は通常、そのことを明記すると考えられる。また、本件では、審査請求人らが〇〇〇〇〇〇本園と〇〇〇〇〇〇分園の定員や募集人数がそれぞれ個別に設定されていることを認識していたといった事情や、〇〇〇〇〇〇さんの兄が〇〇〇〇〇〇本園に在所しているため、〇〇〇〇〇〇さんについて〇〇〇〇〇〇本園を希望する場合、きょうだい優先の適用があるほか兄弟が同じ園に通園する方が家庭にとって利便性が高いといった事情もある。

以上のことを踏まえると、本件において処分庁が審査請求人らに確認することなく審査請求人〇〇〇〇による「〇〇〇〇〇保育園」という記載を〇〇〇〇〇本園への入所希望であると取り扱ったことが不合理であるとはいえない。

したがって、本件において処分庁が審査請求人らに確認することなく〇〇〇〇〇本園のみの入所選考を行ったことが違法又は不当であるとはいえない。

- 4 以上のとおり、審査請求人が主張する理由はいずれも認められないことから、本件審査請求は、第1の審査会の結論のとおり答申する。
- 5 なお、本件審査請求の提起は、申請様式や資料の一部にあいまいな部分があったことに一因があると考えられる。処分庁は、保育所の入所申請は多くの市民にとって不慣れな手続であることを踏まえ、申請者にとってより分かりやすい、明瞭な申請様式や資料を作成するよう努める必要がある。この点、処分庁は、本件審査請求後にシステム改修を行い、改善を図っている。審査請求人らは、このことについて処分庁は、本件審査請求後に短期間でシステム改修を行っており、処分庁の行動は矛盾していると主張する。しかしながら、制度をよりよいものとすること自体は否定されるものではなく、このことをもって上記審査会の判断を左右するものではない。

処分庁においては、今後も、より明瞭な申請様式や案内資料の作成に努められたい。

2025年8月25日

町田市行政不服審査会

会長 大貫 裕之

委員 里岡 玲子

委員 吉田 衣里